

大野記念病院 1 年目。
これから、南堀江の街とともに

Hello OHNO

OHNO Fan  SPECIAL CONTENTS

OHNO *Fan*
July 2024

社会医療法人 寿楽会 大野記念病院 広報誌
OHNO Fan 第6号 別冊（2024年7月15日発行）

〒550-0015 大阪市西区南堀江1-26-10

お問い合わせ 大野記念病院 企画広報課 TEL:06-6531-1815 FAX:06-6536-6390

 社会医療法人 寿楽会
大野記念病院



www.ohno.or.jp



認定番号 JC2938 号

Hello⁺ OHNO

これから一緒に大野記念病院を盛り上げていく新入職医師たち。

消化器内科医や麻酔科医、外科医、内科医、泌尿器科医。

それぞれの職を選んだきっかけとなったことや子どもの頃の夢など、

医師たちの素顔を深掘りします。

大野記念病院の新しい顔、ぜひ覚えてください。



大野記念病院1年目。
医師たちの素顔とは…



Q.1 子どもの頃の夢は？

「人の命を救う仕事に就くことが夢でした！」と言いたところですが残念ながら私はそうではありませんでした。思い返してもこれといった夢がなかったような。大の負けず嫌いではあったので、テストで人に負るのが嫌で頑張っていたのかもしれませんが。誰とでも仲良くなれるタイプでもなかったの、本を読んだり、一人でプラモデルを作って…ハキハキ話すこともできないし、まあ面白味のない子どもでした。

Q.3

趣味や特技はなんですか？

サッカー観戦が好きで、セレッソ大阪の大ファンです。30年以上前のJFL時代から長居陸上競技場に足を運び応援しています。今年思い切って年間シートを買いました。大学時代は1970年代、80年代に活躍したテニス選手ビヨン・ボルグの影響でテニス部に所属しました。彼の強烈なトップスピンを再現したかったのですが願いは叶わず…最近はしていないので久しぶりにテニスを再開しようかなと思います。

Q.4 今の思いを聞かせてください。

これまでの生き方や働き方を見つめ直し、自分自身の医師としての役割について考える時間を持ちたいと考えています。これからは新しい環境に適応し、地域に密着した医療を提供していきたいと思っています。人生のステージが変わる中で、自分の価値観を再確認し、これまでの経験を活かしつつ、新しいことにも挑戦するチャレンジ精神も忘れず頑張っていきます。

高校時代は理学部、工学部志望でした。ところが受験に失敗し、予備校に通うことに。通うまでは医学部の医の字も頭にありませんでした。同じクラスの友人達が皆医学部志望で一緒に話していると、“強い使命感や科学的な興味”、“医療の進歩とともに新しい知識や技術を学び続ける”ということに魅力を感じました。そこで触発され「それなら俺も！」と思い始めたのかもしれませんが。今思えば人生の中での偶然や環境の影響とは不思議なものだな感じます。

Q.2

医師を志したきっかけは？

Hello

中田 一夫 先生

(麻酔科 部長)

麻酔科医として30年。
多くの若い麻酔科医は忙しさから
2、3年で辞めていった。
目の前のことに実直に、
ただその想いで30年間続けてきた。

麻酔科は「診断・治療」を専門とする診療科とは異なった独特のスタンスがあります。手術や治療で患者さんの安全を担う重要な役割の中で、目立たない、でも居なければ困る、そんな存在だと思います。私は患者を診る医師ではなく、患者を診る医師の助けになる医師でありたい。目立たず、粛々と役割を果たして30年、麻酔科医として長いキャリアとなりましたが、そんな我慢強さが唯一の自慢です。



Q.2 医師を志したきっかけは？

家族の影響が大きかったと思います。私の父は血液内科医で「がんセンター」で働いていたため、「がん」に興味を持つように。医学部に入学し、癌は非常に深刻で複雑な疾患で、治療や研究には多くの挑戦があることを学びました。癌の研究をするため、医師になってから大学院へ進学。「再生医療と発癌」というテーマで研究しました。臨床では消化器内科医として胃癌や食道癌、大腸癌など様々な「がん」という疾患と向き合う日々。今後も成長、貢献し続けたいと考えています。

Q.4 今の思いを聞かせてください。

内視鏡は多くの方の検査から治療まで行うことができます。消化器内科医は内科医ですが、お腹を切ることなく一本のカメラを操って電気メスなどを用い、外科医のように癌などの手術も行うことも。この両方の要素を持つことが消化器内科の特徴です。現在の内視鏡は20年前の内視鏡と比べて格段に進歩しています。今後AIが発達し診断能力はさらに向上し、技術革新により内視鏡の性能は飛躍的な向上が期待されます。医療の進化とともに患者さん一人ひとりに日々向き合います。

Q.1

子どもの頃の夢は？

子どもの頃の夢はリニアモーターカーの開発に携わることでした。電車が大好きで、特に未来の高速鉄道に心惹かれました。今やリニアモーターカーは現実となり、数年後に乗車できると思うと胸が躍ります。小学生時代は友人と野球に興じたり、テレビゲームに明け暮れたり。内視鏡技術の礎をTVゲームで築いていたのかもしれませんが。中学から大学卒業までの12年間はテニスに打ち込みました。それぞれの時期に情熱を注いだ経験が今の私を形作ってきたと感じています。

Q.3

趣味や特技はなんですか？

趣味はスポーツ観戦で、野球が大好きです。福岡市出身で福岡ソフトバンクホークスの大ファンです。小学生の頃、当時の福岡ダイエーホークスが福岡に来たのをきっかけにファンクラブに入り、市民球場に応援団として通っていたほど熱狂的な鷹ファン。特技は手先が器用なため機械いじりです。小さな部品の組み立て、修理などが得意です。内視鏡を扱う実務で大きく活かされています。困難な課題でも諦めず最後まで努力するという信念を胸に、今後も病氣と向き合います。

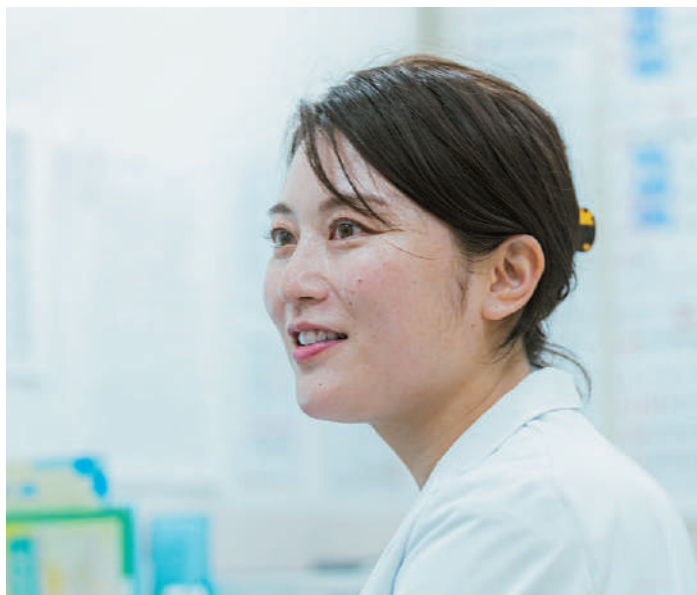
「がん」への探究心は
子ども時代から
今の今まで続いている。
日々の診療は研究と一体だ。

Hello

勝野 貴之 先生

(消化器内科 部長)

学生時代の病院実習で内視鏡という医療機器に出会い、その魅力に惹かれ消化器内科医の道を選択。それから約20年間、内視鏡と向き合い、様々な経験を積んできました。消化器内科は、進化し続ける可能性を秘めた魅力的な専門分野です。今後もさらなる研鑽を積み、患者さん一人ひとりに寄り添った医療を提供し続けていきたいと思っています。



Q.1 子どもの頃の夢は？

子どもの頃からの夢は医師になることでした。父が開業医であり、医師という職業が身近であったのも影響していたんだと思います。街のお医者さんとして、地域の患者さんの健康を守っている様子を間近で見ている、憧れるようになりました。室内で本や漫画を読むのも好きでしたが、体を動かすことも好きで水泳やテニスなども習っていましたね。

Q.3

趣味や特技はなんですか？

運動は苦手ですが、体を動かすのは好きです。学生の頃、部活で水泳やウインドサーフィンをやっていました。水辺で過ごしたり、水に浸かるのが好きです。今年はサーフィンの一つであるSUPにも新たに挑戦してみたいと思っています。また、行ったことのない場所へ旅行に行ってみたり、美味しいものを食べることやお酒を飲むことも好きです。

Q.2

医師を志したきっかけは？

大学は理系学部へ入学し、生物学を学んで卒業しました。研究職を目指し大学院へ入りましたが、研究で今後の技術開発に携わるよりも今ある知見や技術を活かして働きたいと考えるように。その中で、大人になって改めて父が働いている様子を見る機会があり、子どもの頃の夢であった医師を再度志すようになりました。臨床医として、目の前の患者さんの助けになればと考え、医学部の再受験を決意しました。

Q.4 今の思いを聞かせてください。

内科専攻医3年目で、経験不足のため日々学びながら診療をさせていただいています。大野記念病院では、一般内科の診療を学びながら、腎臓内科医として、受診される患者さんに寄り添い、透析治療、慢性腎臓病の管理、腎機能障害や検尿異常の診療や診断に携わっていきたくと考えています。まだまだ修行中の身で、たくさんご相談、ご質問させていただくことも多いかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

Hello

池田 美幸 先生

(内科)

父親のように
地域の患者さんに
心から寄り添い
支えになる存在に。

一度は理系学部に入學し卒業しましたが、子どもの頃の医者になる夢が、大人になってから芽生え、医学部受験を決意。それは、開業医である父の街のお医者さんとして地域の患者さんに寄り添う姿を大人になって改めて見て、再度憧れを抱いたからです。父のように、地域の患者さんに心の底から寄り添い支えになるような、そんな医者を目指します。



Q.2 医師を志したきっかけは？

やはり子どもの頃に興味を持ったからです。高校生になって研究の道に進もうと考え、大学のオープンキャンパスに行きました。そこでは癌細胞に原子を装置で加速させたビームを当てて破壊するという研究をやっている、興味を持ちました。ただ研究一本で行くことに不安があり、将来的に研究や臨床の道で選択肢が広がる医学部の道へ。医学の勉強は楽しく、自分で治療をして人の役に立ちたいという気持ちが強くなり、医師になりました。

Q.4

最近のマイブームは？

おいしいお店の開拓がマイブームです。特に美味しいパン屋を見つけるのにハマっています。元々朝食は実家ではご飯派で、大学では朝食を抜くことも増えていました。最近は朝にパンを食べようになり、いろいろな店で買ってみるとそれぞれ違いがあることに気づきました。具材などの違いはもちろんですが、食パンやクロワッサンのようなシンプルなパンでも味わいが違い、おもしろいです。みなさんオススメのお店があれば教えてください。

Q.1

子どもの頃の夢は？

子供の頃の夢は学者になることでした。世のため人のために頑張りたいというよりは、新しい発見をして有名になりたいという子ども心だったと思います。図書館の伝記のコーナーの本が好きで、よく読んでいました。特に医学の世界は新発見がそのまま命に直結し、成果がわかりやすいため興味を持ったのを覚えています。中学生になるにつれ現実を考え始め、まずは勉強をしっかりとやり、将来自分で仕事を決められるようにと頑張ってきました。

Q.3

趣味や特技はなんですか？

趣味はテニスとサイクリングです。テニスは中学の時に始め大学まで続けました。とにかく強い球を打てれば勝てるというわけではなく、打つ技術が必要になる奥が深いスポーツです。試合の組み立てを考えてテクニカルなショットを打ったり、時にはパワーで押してラリーを制したり。今までできなかったショットを練習し、打てるようになったときの達成感が魅力で、大人になってからも楽しく続けています。

Hello

河内 寛之 先生
(外科)

医学の世界はおもしろい。
ただ学ぶのが楽しくて学を極めた。
この学びが誰かの役に立つなんて
こんな素晴らしいことはない。

外科専攻医として様々なことを学びながら診療させてもらっています。時には思うようにいかないこともあります。周りのスタッフに助けられながら日々診療をしています。まずは外科疾患全般を診られるように、全力で取り組んでいます。また、呼吸器における気胸や肺癌、悪性中皮腫などの知識もさらに深めているところです。患者さん一人ひとりに合わせた治療を精一杯提供します。



Q.1 子どもの頃の夢は？

子どもの頃はなんにでもなれる可能性があると思い、日々を楽しんでいました。昼夜問わず働く祖父母、両親のもとで育った反面教師で、一貫して毎日手の込んだお弁当を持ってきた友達に憧れていました。大人になったら、観葉植物を育てて、生活感がありながらもきちんと整理整頓された家で、毎日自炊をして、お弁当を作って…毎日こつこつ日々を楽しむ余裕を持って…というのが夢でした。全然叶えることができずに過ごしていますが、今もそんな生活を夢見ています。

Q.3

趣味や特技はなんですか？

趣味を楽しむ余裕はなかなかありませんが、映画や音楽、漫画など、一人で時間を見つけて楽しむものが好きです。以前はジグソーパズルにハマっていました。家での時間が好きなので、コロナ禍のように家にこもることを強制されても、何の苦もなく生活できると思います。特技は、一つだけ…開けにくい瓶の蓋をだいたい開けることができるような気がするので、開かない蓋がありましたらお声がけください。

Q.2

医師を志したきっかけは？

住み慣れた地域で過ごしやすい生活を維持するために、人のサポートをする仕事をしたいと思っていました。人が足りていないサービスを補填できればと考えていましたが、現在の高齢化社会において、高齢の方への医療ケアが必要となることから、それなら医療の勉強をしようと思い医学部に入りました。

Q.4

今の思いを聞かせてください。

自己主張できるほど、何も面白味はない人間ですが、日々こつこつ頑張ることは得意です。通院したからといって根本解決にはならないし、定期フォローって何の意味があるのかな？と感じる方も多いと思います。内服をし忘れてしまう日がある、通院はちゃんとできるけど普段の生活はなかなか変えることが難しい、そういった方もいらっしゃると思います。医療は魔法ではないので、治せないこともあります。現実生活とどう関わるべきか、より最適な方法を一緒に考え、お話しできれば嬉しいです。

余裕のある暮らしを夢見てる。
でも、私の毎日が
誰かの豊かな暮らしに
つながるならそれでいいかな。

Hello

森本 万里 先生
(内科)

仕事で忙しく過ごす家族のもとで育ったからか、余裕を持った暮らしをいつも理想に描いていました。ですが、目の前の患者さんのこと、地域や現代社会の状況、様々なことを考えて過ごしていると、いつの間にか私も家族と同じような毎日に。日々こつこつ積み重ねた仕事、誰かの豊かな暮らしにつながっていたら嬉しいですね。



Q.1

子どもの頃の夢は？

子ども時代は競争社会に飲み込まれず、両親に怒られない程度にやりたいことをやり、のんびり、細々と生きてきたような気がします。大人になった今でもそれは変わりなく続いているなと思います。子ども時代の夢はというと、正直…特になかったかもしれません。大人になれば仕事をしないといけないので何らかの職に就いているだろう、とか、流れに乗ってなんとなかなって考えていたのかもしれない。

Q.2

医師を志したきっかけは？

幼少期に家族が病気を患っており、その病気で苦しむ姿を見て、自分が医師となって直接、自分の手で治療をして治してあげたいと思いました。高校生となり将来の進路を考えたとき、家族の病気はほぼ完治していましたが、自分の家族のように病気で苦しんでいる多くの方々を医療でサポートしたいと考えるようになりました。そこから自分の手で手術をし、患者さんの役に立ちたいと思い、医師を志しました。

Q.3

趣味や特技はなんですか？

おいしいものを食べることが大好きです。趣味は音楽でギターやベースで演奏もします。高校生でギターを始め、その頃は文化祭で友人と演奏する程度でしたが、大学時代フォークソング部(軽音楽部)でバンドを組み、日々様々なライブに出演しました。当時部長を務め、学祭や他大学との合同イベントの指揮をとりました。この経験でチームワークの大切さを知ることができ、現在のチーム医療にも役立っている気がします。

Q.4

今の思いを聞かせてください。

私自身誰かと比較して秀でた点や才能はあまりないと思います。長所を挙げるとすれば、何事も諦めず努力し続けること、とことん追求しやり込むことです。自分が医師になることができたのは家族や周りのサポートのおかげなのはもちろんですが、この長所があったからだと思います。自分の長所を活かし、日々の診療も粘り強く、患者さん一人ひとりに合った医療を提供できるように精進します。

Hello

岡本 好太郎 先生

(泌尿器科)

自分の手で家族の病気を治してあげたい
そんな思いからはじまった
医者という仕事。

私は医師としては5年目、泌尿器科医としてはまだ3年目です。医師としてまだまだ未熟なため患者さんによりよい医療を提供すべく自己研鑽に努める毎日です。当院の一員として初心を忘れず、これまでの知識と経験が患者さんの一助となるべく邁進してまいります。また、泌尿器科をさらに盛り上げていきますのでご声援よろしくお願いいたします。